

令和5年度 東京都立南平高等学校全日課程 学校経営報告

校長 松永 今日子

1 今年度の取組と自己評価

【評価方法】 学校運営連絡協議会による評価(生徒・保護者・教職員・地域住民)

(1)教育活動への取組と自己評価

取 組	自 己 評 価
1 学習指導 ① 習熟度別授業展開を実施し、学期ごとに評価し達成度に応じた指導に取り組む。さらに、定期考査・模試・課題テスト等による個々の生徒の学力習熟度、学習状況を把握し、個々の生徒の希望進路実現に努める。 ② 生徒による授業評価や教員相互の授業見学等を通じ改善を行い、授業目標の明示、大学入試・模試を意識した内容、知的好奇心を刺激し自己学習へつなげる授業、適切な小テスト・課題を行い、全体層の引き上げを行う。 ③ 教科担当者は、読書活動、発表(口頭・文章)、定期考査での記述力、論述力を図る問題作成の機会を作り、言語活動の充実を図る。さらに、新カリキュラムにおける教育活動のために ICT機器等の活用等から、教員一人ひとりが目標を設定し、主体的で深い学びを目指す。	・習熟度別授業展開を実施し、濃やかな気配りをしながら指導している。学校評価アンケートでは、生徒の教育課程への満足度が高いという結果が出ている。 ・年間授業計画を確実に実施し、生徒が希望進路を実現できる学力を、すべての生徒に大学入学共通テストの平均点以上の学力を醸成してきた。教員間の授業見学を通じ、授業改善へ向けての研修体制ができた。 ・ほとんどの教科において記述力や論述力を問う問題作成ができ、発表の活動を積極的に導入し言語活動の充実ができた。また、ICT を積極的に活用し、緊急時にも対応できる授業の環境を整えられた。図書館の積極的活用や生徒の読書量を増やすことが次年度以降の課題である。
2 進路指導 ① 生徒・保護者に進路通信・講演会等で情報発信を行う。また、「進路だより」「進路の手引き」を活用し、個々の生徒に応じた情報を提供する。 ② 学習記録表の記入の定着により自主学習時間の増加を目指す。また、長期休業中の補習・講習を取りまとめ、効果的な講習を実施する。 ③ 年2回の保護者会、年2回以上の個人面談(二者、または三者)を実施し、生徒や保護者の状況を把握し、諦めさせない進路指導を行う。	・進路データの蓄積、進路通信の発行、進路ガイダンスを通じ、昨年度収集した大学入試改革である大学入学共通テストや各大学の進路情報を生徒に提供した。 ・放課後・休日の教室を中心とした自主学習支援など、進路指導部と各学年が連携し、生徒の希望進路実現に向けた指導を行った。学習記録表の活用について、学年により差があるため、次年度以降活用の在り方を検討する。 ・進路指導部から保護者会の場を活用した情報提供ができた。また、三者面談等による個別指導を行い、進路実現支援体制を構築できた。若手教員が進路指導に苦慮しない学年体制もできた。
3 生活指導 ① 教育活動全般において、適切な指導・助言を行い、生徒の自主的な企画運営を促し、自主自律の精神、自己管理ができる生徒を育成する。 ② セーフティ教室をはじめ生活指導全般で、交通安全、薬物乱用防止、情報モラルの指導を行う。 ③ 生活指導部と学年・教科担当者は連携を図り、月ごとに遅刻生徒を集計し時間を守る意識の醸成の対策を講じる。また、登下校時の通学マナーや挨拶、身だしなみ指導を行う。 ④ 人権感覚と道徳観、生命尊重の精神の醸成のために、始業式・終業式、HR、集会、講演会等で絶えず、指導を行う。また、スクールカウンセラーや外部機関と連携した相談体制を強化する。	・コロナ以前に近い形で、学校行事や部活動を行なった。コロナ以前の行事の姿を知らない生徒たちは、工夫し協働するなどの力を身に付けていった。 ・相談体制を強化し、学校生活に不安がある生徒へは、必要に応じて担任、養護教諭やスクールカウンセラー等による支援を行ない、全校体制での生徒の心のケア等に努めた。 ・登下校の際のマナーについて、地域からの苦情が少なからずあることから、生徒への指導を引き続き行う必要がある。 ・感染症が 5 類に移行したあとも、咳エチケット、手洗いの励行、検温等の健康管理等の感染症対策を意識し、校内の衛生環境に努めた。
4 特別活動・部活動 ① 部活動顧問は、活動時間・下校時刻の厳守、ガイドラインに基づき、部員への指導・助言を行い学習・学校行事・部活動の両立を進める。また、部活動年間指導計画を周知し、部活動保護者会開催により、部活動顧問と生徒・保護者の連携を図る。	・個々の生徒の能力・個性を発揮する場である、運動部・文化部ともに活発な活動を続けている。全国大会・関東大会・都大会への出場を果たした。

② 「人間と社会」推進委員会は、全分掌、関係諸機関等と連携し、「よりよい生き方を主体的に選択し行動する力」を育成する。	・「人間と社会」においては多くの関係機関と連携した防災教育では、生徒自身が自助・共助・公助の意味を理解するだけではなく、実践者になることを目指した。火事のみならず様々な災害を想定し避難する避難訓練を行った。1 学年では全員が救命講習を受け、資格取得できた。
③ 部活動は、中学生の部活動体験、地域行事への参加等、地域と連携した活動を進める。	・生徒会や部活動における地域の小・中学生との交流やボランティア活動等、地域との連携活動は、高校募集対策にも貢献している。

(2)重点目標への取組と自己評価

取 組	自 己 評 価 (数値)
1 学力向上 すべての生徒の学力向上を目指し、組織的・計画的な学習指導体制の充実を図る。また、教科主任会を中心とした組織的・計画的な教科会での研修活動の充実を図る。	・「共通テスト得点」全国平均超えの科目→21科目中14科目(昨年度 10 科目) ・「共通テスト得点受験科目75%以上の得点者」→35人(昨年度 20 人) ・教科主任会・教科会→月1～2回実施 ・学校評価アンケート:授業への満足度→生徒 78%
2 進路実現 3年間のキャリア教育年間指導計画に基づき、学年・教科主任会と連携し、生徒・保護者に情報発信を行い、「自ら希望する進路を決定できる指導」、「進路希望を実現させる指導」を行う。	・長期休業中の補習・講習→44講座 ・生徒の自主学習時間→1年生85. 2分、2年生81. 3分 ・国公立大、難関私立大学(早慶上理GMARCH)現役延べ合格者数→250 名 ・進路決定率→ 90.1% ・学校評価アンケート:学習環境の整備についての満足度→生徒 77.5%、保護者 77.1%、教職員 77.7%
3 広報・募集活動のさらなる充実 総務部が中心となって企画・立案し、学校説明会、学校見学会、Webサイト等による広報活動を推進する。	・学校説明会参加者→792 組 ・学校見学者→2783 人 ・出前授業等→12 件 ・ウェブサイト更新→300 回 ・地域と連携したボランティア活動→4 回 ・入選倍率(最終応募状況) 推薦 2.44 倍 一般 1.57 倍
4 自己管理能力の向上と規範意識の育成 生活指導統一基準による生徒の自己管理能力の向上と社会の規範意識の育成、マナー育成を図る。また、人権教育と道徳教育の推進、教育相談の活用により、いじめ防止、生徒の心のケア、個別の支援教育が必要な生徒への個別の支援教育を行う。	・部活動加入率→85. 9% ・教育相談委員会(特別支援教育含む)→11回

2 次年度以降の課題と対応策

課 題	対 応 策
学力向上 自宅学習時間の減少が見られ、家庭学習・自学自習の習慣の確立が必要。週末課題について、分量や内容について生徒の実態と合っていないところがある。スマスク端末を活用し、欠席の生徒への学習フォローの体制を確立する必要がある。	・教科主任会で自宅での課題の量をバランス良く調整し、教科会で学習内容を吟味することで、生徒が継続的に取り組めるシステムにする。 ・部活動と学習の両立について生活指導部と進路指導部が主導し、部活動の時間等ルールを明確化する必要がある。
進路実現 大学入試について、大学共通テストの状況把握と分析が不十分である。今後も大学入試改革に備えて最新の正確な情報をつかみ対応を考えることが必要である。	・情報収集のための研修会などは対面・オンライン問わず十分に行っていく。広くアンテナを張り、各大学と情報交換を進め、継続的な学習指導の基盤作りに着手する。 ・各種の入試に対応できる学習指導と、進路指導を展開していく。
広報活動・地域との連携 地域と十分に連携する場面を増やせなかった。また、Web サイト等を適切に活用し、学校の取組を十分に伝えられていない。	・Web サイトを適宜活用し、学校の活動を外部へ公開する。また、授業公開、部活動や行事の公開、中学生部活動参加などを積極的に行い、本校の良さをアピールしていく。
自己管理能力の育成	・開校以来のノーチャイム制を守りつつ、自らの学びの姿勢を確立させる教育活動の実践を継続する。